

第1回東名遺跡整備基本計画策定委員会 議事録

1 開 会

2 委嘱状交付

3 あいさつ

【課長挨拶】

東名遺跡の整備については、様々な課題を抱えています。ただ、前進しようという形での苦悩であり、委員の皆様のお力を借りて進めて行けたらと考えています。遺跡の性格上、史跡地である屋外の展示とガイダンス施設による屋内展示を組み合わせる整備を行う必要があり、このような委員構成となっています。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

4 委員長選任

事務局推薦により、委員長に小畑委員、副委員長に重藤委員を選任。

5 委員長あいさつ

【委員長あいさつ】

東名遺跡の重要性については十分理解している。ただ、史跡地は調整池内にあり、これをどう見せていくのか。非常に難しい問題とは思いますが、委員の皆様のお力を借りて整備計画を策定したいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

【副委員長あいさつ】

佐賀大学に勤務しており、動きやすい立場で動いて、様々な責任を果たせればと思います。よろしくお願いいたします。

6 議 事

(1) 委員会の目的と全体スケジュールについて

(2) 整備基本計画における検討事項と方向性について

【資料を基に説明】

【質疑応答】 ●…委員 ○…事務局 ■…オブザーバー（国交省） □…オブザーバー（文化庁）

●：大事なものは基本設計だと思うが、31年度下半期の基本設計以降の計画はどうなっているのか。

○：現状では、合併推進債の利用を考えていて、34年度までに整備完了を予定している。そのため、32年度に実施設計、33、34年度に工事施工を考えている。

●：予算要求に間に合わせるには、もう少し早く基本設計を行うべきではないか。

○：今回整備基本計画を策定するが、実行の段階がいつになるか、内部調整ができていな

い。近年、文化財関係で費用がかかっており調整が難しいところではある。また、予算については、当初予算ではなく、年度途中の補正予算も視野に入れて考えている。

- ：一つの考え方として、基本設計と実施設計を一連に行うことを考えても良いかも知れない。
- ：文化庁の補助事業としては、どの段階から対象にするのか。
- ：この整備基本計画策定も補助事業である。基本設計も補助事業を活用したいと考えている。ただ、ガイダンス施設は埋蔵文化財センターと併設を予定しているので、現地整備は補助事業で、ガイダンス施設については市の単独費での対応を考えている。

(3) 整備・活用の事例報告と東名遺跡整備における課題の整理について

【資料を基に説明】

【質疑応答】 ●…委員 ○…事務局 ■…オブザーバー（国交省） □…オブザーバー（文化庁）

- ：6・7・8であげられている3施設について、縄文遺跡の施設ではないが、体験活動について盛んに行われているのか。
- ：講演会や企画展を行われている。体験活動も行われているが、遺跡の時代に即した活動というのは、あまり多くないと思う。
- ：それは遺跡の性格や時代性の問題と考えて良いか。
- ：イメージ的には、縄文遺跡の方が原始的であるし、本物体験が企画しやすいようである。
- ：文化庁補助金は、埋蔵文化財センターを対象としたものはないのか。
- ：展示や内装部分については補助があるが、建物については無い。
- ：ガイダンス単独であれば、建物でも補助対象となる。埋蔵文化財センターと合築をする場合は案分比率での対応となる。
- ：先ほど紹介した施設では、出雲弥生の森博物館が、ガイダンスと埋蔵文化財センターの両方の補助金を活用されている。
- ：事例報告された遺跡は、すべて国の史跡になっているのか。
- ：仙台市の山田上ノ台遺跡以外は、いずれも国史跡である。
- ：史跡指定年次はわかるか。
- ：そこまでは記載していない。
- ：出土遺物はほとんど重要文化財なのか。
- ：三内丸山遺跡や岩戸山古墳はまとめて重要文化財の指定を受けている。他の遺跡も指定されているものもあれば、指定を受けていない遺跡もある。
- ：総事業費や建設費についてわかるのか。
- ：取材はある程度しているが、記載はしていない。